

平成24年度公共事業事後評価調書

1. 事業説明シート(1)

(区分) **国補**・県単

事業名	畑地帯総合整備事業(国補)		事業箇所	笛吹市御坂町上黒駒		地区名	上黒駒		事業主体	山梨県	
(1)事業着手年度	H10年度		(2)事業期間	H10年度~H19年度		(3)完了後経過年数	5年		(4)総事業費	1,375百万円	
(5)事業着手時点の課題・背景						(8)事業位置図等					
<p>本地区は御坂山地の山裾と国道137号(御坂みち)に挟まれた区域に位置し、斜面を開墾して、モモ、スモモを中心とした果樹農業が行われている。しかし、地区内の基盤整備は開拓当時の状態のままであるため、老朽化が進行しているとともに、農道の幅員狭小、排水路の断面不足等営農環境が著しく低い状況である。このため、農道、排水路等の基盤整備を実施することで営農環境の改善を図り、果樹農業の持続を目指し本事業を実施した。</p>						省略					
(6)事業着手時点で想定した整備目標・効果											
(事前評価未実施)											
<input type="checkbox"/> 主要目標 ・農業生産力の向上 <input type="checkbox"/> 副次目標 ・農業用排水能力の向上 <input type="checkbox"/> 副次効果 ・果樹園景観の保全 ・農地の保全											
(7)整備内容(目標達成の方法)											
農道(8路線) L=5,848m W=3.0~4.0m 排水路(2路線) L=884m W=0.6~1.0m 営農用水施設(2ヶ所)											

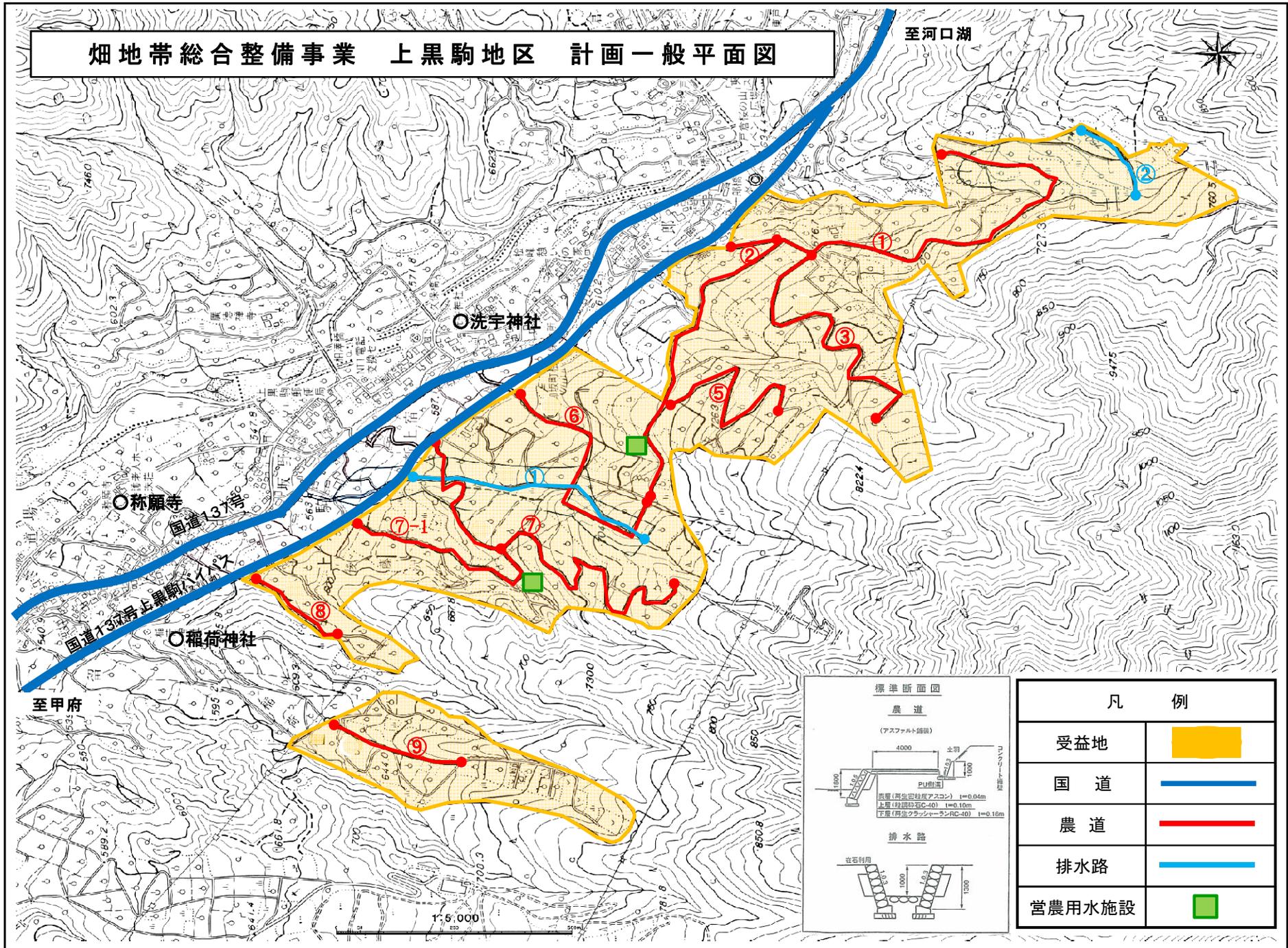
2. 評価シート（1）

<p>(1)事業貢献度 < (良) ・ 不良 ></p> <p>(理由) 農道、排水路が整備されたことにより、農作物の品質向上が図られるとともに施設管理が容易となったため、農業経営の改善が図られた。</p> <p>① 主要目標 農業生産力の向上</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>着手時点数値等</th> <th>評価時点数値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>農業所得の増加額</td> <td>351千円/ha→設定せず</td> <td>703千円/ha</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table> <p><input type="checkbox"/> 評価時点の数値に対する評価 ・ 農業所得の増加額が、評価基準値351千円/haを上回っている。</p> <p>② 副次目標 農業用排水能力の向上</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>着手時点数値等</th> <th>評価時点数値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>用排水能力向上率</td> <td>設定せず</td> <td>1.43</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table> <p><input type="checkbox"/> 評価時点の数値に対する評価 ・ 排水路の整備により、排水能力向上率が1.43となり、基準値1.0以上を満たしている。</p> <p>③ 副次効果 農地の保全</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>果樹園景観の保全</td> <td>果樹栽培が維持されることにより、良好な果樹園景観が維持されている。</td> </tr> <tr> <td>農地の保全</td> <td>排水能力が改善され農地浸食が防止されている。</td> </tr> </tbody> </table> <p>④ その他の事業効果の発現状況 ・ なし</p>	指標	着手時点数値等	評価時点数値	農業所得の増加額	351千円/ha→設定せず	703千円/ha							指標	着手時点数値等	評価時点数値	用排水能力向上率	設定せず	1.43				項目	内容	果樹園景観の保全	果樹栽培が維持されることにより、良好な果樹園景観が維持されている。	農地の保全	排水能力が改善され農地浸食が防止されている。	<p>(2)費用対効果分析の算定基礎となった要因等の変化 < (有) ・ 無 ></p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>着手時点の計画</th> <th>事後評価時点の実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総事業費</td> <td>1,943百万円</td> <td>1,375百万円</td> </tr> <tr> <td>工期</td> <td>H10~H14</td> <td>H10~H19</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">経済効率性</td> <td>費用</td> <td>1,943百万円</td> </tr> <tr> <td>便益</td> <td>2,047百万円</td> </tr> <tr> <td>B/C</td> <td>1.05</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td>1.33</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 平成16年度再評価地区 総事業費1,785百万円、工期H10~H18に見直し</p> <p>(要因変化の分析)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 総事業費： 営農上支障が無い計画路線の道路幅員の変更など、整備水準の見直しを行ったことにより、コスト縮減を図った。また、国道137号バイパスの側道や、東電鉄塔の工事用道路など既存道路の活用によって整備延長が減となった事により、568百万円の事業費が減となった。 ・ 工期： 予算状況が厳しく、当初予定していた年度別予算の確保が困難となったため、5年間の工期延長。 <p>(3)事業実施による環境の変化 < (有) ・ 無 ></p> <p>①自然環境への影響 ・ 営農条件が改善されたことで、耕作放棄地の発生が未然に防止されたことから、果樹園のおりなす良好な景観が保全されている。</p> <p>②生活・居住環境等への影響 ・ なし</p> <p>③環境保全対策の効果の発現状況（措置を講じた場合） ・ なし</p>	項目	着手時点の計画	事後評価時点の実績	総事業費	1,943百万円	1,375百万円	工期	H10~H14	H10~H19	経済効率性	費用	1,943百万円	便益	2,047百万円	B/C	1.05			1.33
指標	着手時点数値等	評価時点数値																																													
農業所得の増加額	351千円/ha→設定せず	703千円/ha																																													
指標	着手時点数値等	評価時点数値																																													
用排水能力向上率	設定せず	1.43																																													
項目	内容																																														
果樹園景観の保全	果樹栽培が維持されることにより、良好な果樹園景観が維持されている。																																														
農地の保全	排水能力が改善され農地浸食が防止されている。																																														
項目	着手時点の計画	事後評価時点の実績																																													
総事業費	1,943百万円	1,375百万円																																													
工期	H10~H14	H10~H19																																													
経済効率性	費用	1,943百万円																																													
	便益	2,047百万円																																													
	B/C	1.05																																													
		1.33																																													

評価シート（2）

<p>(4) 社会経済情勢の変化が事業に及ぼした影響 <input type="checkbox"/> 有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/></p>	<p>(7) 同種事業の計画・調査のあり方の見直しの必要性 <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/></p>
<p>① 社会経済状況の変化 ・なし</p> <p>② 関連計画・関連事業の状況の変化 ・なし</p> <p>③ 事業環境等の変化 ・なし</p>	<p>(理由) ・同様の機能を発揮できる道路の利活用やほ場間を連絡する農道の規格を見直すなど、整備水準の見直しを必要最小限に行ったため、事業費が減となった。</p> <p>(具体的反映策) ・今後の事業計画は、関係機関との調整を入念に行い計画の精度を高めること及び事業の時間管理を徹底し、事業の効率性の確保を図る。</p> <p>・事業の計画や調査にあたって、ワークショップ手法などにより、地域の合意形成を図っていく。</p>
<p>(5) 今後の事後評価の必要性 <input type="checkbox"/> 有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/></p>	<p>(理由) ・今回の事後評価において、農業所得の増加額などが基準値を上回り十分な効果が発現されているため、今後の事後評価は必要ないと思われる。</p> <p>□「有」の場合の実施時期及び方法 ・時期： 年度 ・方法：</p>
<p>(理由) ・なし</p> <p>(具体的改善策) ・なし</p> <p>(既に実施した改善策の内容と効果) ・なし</p>	<p>(8) 事業評価手法の見直しの必要性 <input type="checkbox"/> 有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/></p> <p>(理由) ・なし</p> <p>(具体的反映策) ・なし</p>
<p>(6) 本事業における改善措置の必要性 <input type="checkbox"/> 有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/></p>	<p>(9) その他特筆すべき事項 <input type="checkbox"/> 有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/></p>
<p>(理由) ・なし</p> <p>(具体的改善策) ・なし</p> <p>(既に実施した改善策の内容と効果) ・なし</p>	<p>・なし</p>

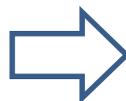
3. 添付資料シート(1)





着手前
現道は幅員も狭く路面も整備水準が低く車両の通行に支障を来していた。

①農道



完成後
農道が拡幅されたことにより車両のすれ違いも容易になり、農耕車両等の通行の利便性が向上した。



着手前
空石積構造で、水路断面も十分な大きさが確保されておらず、大雨時には圃場が度々溢水被害にみまわれた。

②排水路



完成後
空石積水路からコンクリートブロック積水路に整備され、溢水被害の防止が図られた。



完成後
農道が整備されたことにより営農条件が改善され、良好な果樹園景観が保全されている。



完成後
農道が整備されたことにより、圃場に車を横付けしての農作業が可能になった。



営農用水施設設置状況
農道内に埋設されている地区の簡易水道を利用して地域給水栓の設置を行い、防除用水に利用している。